

つづき

津付ダムだより

台風シーズンです。ご注意ください！

お盆が過ぎ、夜風の冷たさに秋の気配を感じるようになりました。例年、この時期は台風の被害が目立ってくる時期であり、八月から十月の三ヶ月は、「台風シーズン」とも呼ばれています。

気象庁の統計資料（過去十年）によりますと、この時期に東北地方に上陸又は接近した台風は、年平均四個となっています。（下段の表を参考にしてください。）

気仙川流域で未曾有の被害を受けた昭和三年のアイオン台風は、九月一七日頃のことでしたが、これからの時期は、

台風の直撃や接近、あるいは台風の影響による秋雨前線の活発化等により、大雨が発生することが考えられますので、河川の増水や土砂災害には十分な注意が必要です。増水時の河川や沢、用水路に近づかないことはもちろん、避難場所と避難経路を再確認しておくなど、万一の事態に備えておくことが大切です。

過去10年間の台風資料（データは気象庁HPより、単位：個）

	台風発生数	日本への上陸数	東北への上陸・接近数
10年間の総数	237	32	59
と年間平均	平均約2.4	平均約3	平均約6
上記のうち	159	15	40
8～10月分	平均約1.6	平均約2	平均4個

台風発生数、東北への上陸・接近数とも、8～10月に年間の約3分の2が集中しています。

工事用道路の着工準備進行中

津付ダム建設事業では、現在の国道三九七号線の付け替え工事を先行して行う計画です。今秋には、付け替え工事に必要な資機材や土砂などの運搬に利用する「工事用道路」に着工する予定であり、現在、そ

の準備を進めています。

付け替え工事により、道路幅が広がり、急坂や急カーブが解消されるなど、皆さまの道路利用の利便性、安全性が高まることから、早期完成に向けて努力して参りますので、ご理解とご協力をお願いします。（工事の進捗状況は、本紙でお知らせして参ります。）

埋蔵文化財発掘調査のお知らせ

津付ダム建設予定地周辺には、栗木鉄山跡や子飼沢高炉跡など、数箇所の遺跡が確認されていますが、この他にも未知の遺跡が存在する可能性も有るため、岩手県教育委員会に依頼し調査した結果、二箇所の遺跡（縄文時代の住居跡と思われる）が発掘されている可能性が高まり、このほど発掘調査を開始しました。

発掘調査の結果については、本紙でお知らせする予定ですが、現地の見学を希望される方は、事前に、津付ダム建設事務所に

発行所
大船渡地方振興局土木部
津付ダム建設事務所

お問い合わせ先
〒029-2502
気仙郡住田町下有住
字中上333
TEL 0192-48-3123
FAX 0192-48-3121
津付ダム公式ホームページ
<http://www.pref.iwate.jp/hp4580>

質問コーナー

皆さまから頂いたダムや河川改修、環境問題などへの質問、意見をご紹介します。



発掘調査状況

お知らせください。

（質問）気仙川の治水対策でダムを作るなら、支川の大股川ではなくて気仙川の本川ほんせんに作った方がよいのではないですか？
（回答）気仙川本川にダムを建設した方が効果的ですが、気仙川本川は石灰岩が介在している地質であり、漏水対策等の技術的問題があります。またダム建設による社会的影響（家屋移転数、自然環境に与える影響）や経費も含め総合的に比較検討し、大股川としています。
（津付ダムの公式ホームページにも質問などを掲載しています。）

気仙川の防災対策マメ知識(第2回)

前は、気仙川などの河川の水位の状況を知る方法について紹介しました。
今回は、**河川水位の位置付け**について紹介します。

「河川改修と水防活動は、『車の両輪』と言われるとおり、洪水被害を軽減するためには、河川工事などのほか、水防団(消防団)や地元自治会などによる水防活動も非常に大切です。

気仙川は『水位情報周知河川』と『水防警報河川』の指定を受けており、市町長による避難勧告を行う目安となる水位や、水防団の活動基準となる水防警報を発令する水位などを定めています。

気仙川では、次の区間において、水位情報の周知や水防警報を行っています。

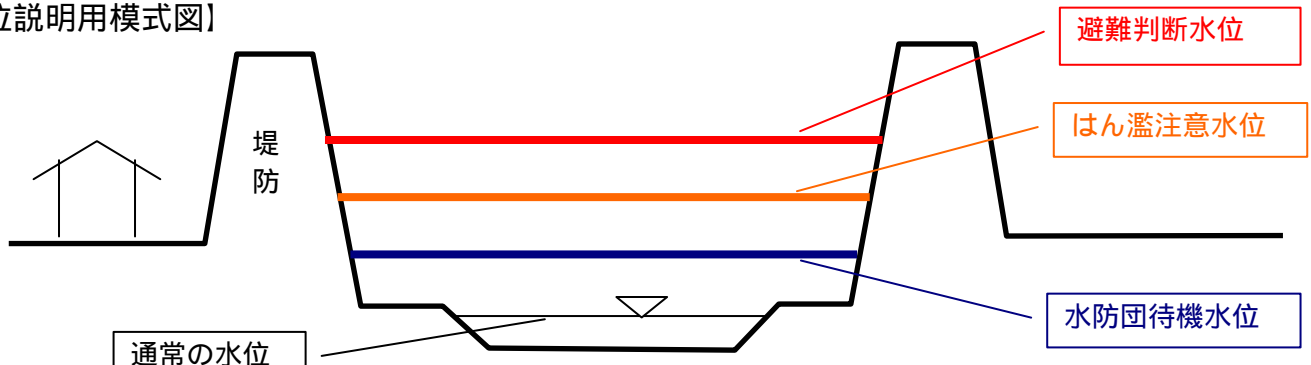
気仙川上流 … 気仙川と大股川の合流点(住田高校付近) から
岩澤橋の600メートル下流(世田米字山谷地内) まで
気仙川下流 … 舞出頭首工(横田町字久連坪地内) から 河口 まで

水位情報の周知や水防警報は、下の表の基準により、あらかじめ各区間で定めた河川水位観測所における水位に応じて行っています。

水位の名称()	水位の位置付け	気仙川上流の水位値 (観測所名:昭和橋)	気仙川下流の水位値 (観測所名:館)
避難判断水位 (特別警戒水位)	市町村長の避難勧告等の発令判断の目安となる水位	2.90 メートル	3.90 メートル
はん^{らん}注意水位 (警戒水位)	洪水により相当の家屋浸水などの被害を生じるはん ^{らん} のおそれがある水位。水防団が出動し水防活動を行います。	2.60 メートル	3.20 メートル
水防団待機水位 (通報水位)	水防団が出動のために待機する水位。	2.10 メートル	2.10 メートル

(平成19年度から、水位の名称が変更になりました。変更前の名称は下段()書きのとおりです。)

【水位説明用模式図】



<留意事項> この図はイメージ図であり、実際の地形とは異なります。

昭和橋と館の河川水位は、インターネットや携帯電話でご覧いただけますので、水防団待機水位をひとつの目安として、その後の気象情報や河川水位情報に特に注意されるようお願いします。

なお、豪雨のときは、河川だけでなく、沢からの土石流やがけ崩れ、道路の冠水などが発生するおそれがありますので、河川水位に関わらず、**早めに避難準備などの行動を始めることが何より重要です。**日頃から、豪雨や洪水に備えて、避難場所と経路の確認、携行品の準備等をしておきましょう。